

【資料2】「ノーモア・ヒバクシャ継承センター設立の呼びかけ」

認定NPO法人 ノーモア・ヒバクシャ記憶遺産を継承する会
事務局長 伊藤 和久

本日は、貴重な時間を割いていただき、ありがとうございます。また、日頃より私どもの活動にご理解とご協力をいただき、改めて感謝申し上げます。

私ども、ノーモア・ヒバクシャ記憶遺産を継承する会は、2011年12月10日に発足、2012年4月20日に東京都よりNPO法人として認証されてから、6年が経ちました。

この間一貫して、被爆者の皆さんの歩みと営みを受け継ぎ、後世に伝え続けるために、被爆者による原爆とのたたかい（運動）の記録を「記憶遺産」として引き継ぎ、保存し、広く内外に発信し交流することのできる、継承のための拠点、《ノーモア・ヒバクシャ記憶遺産の継承センター》（略称：ノーモア・ヒバクシャ継承センター）の設立をめざしてきました。その「基本構想」を2013年に発表して以来、その趣旨に賛同する個人、団体、企業など多くの方々からご支援を寄せていただきました。

この度は、継承センター設立のための基礎的な条件が整ったことをご報告しながら、設立に向けたご協力を呼びかける次第です。

まず第一に、日本被団協所蔵の運動関係資料は全体としてほぼ収集しつつあります。それらを補充する資料として関係者、ご遺族の資料調査を行い、寄贈を受けています。直近では、肥田舜太郎さん、小西悟さんのご遺族から資料の寄贈を受けたところです。これらは、昭和女子大の松田忍先生の指導のもと、院生や学生の協力で一点、一点を整理し、目録や電子ファイルにまとめ、資料の歴史的意義を一般に公開できるよう準備を進めています。整理済みの運動関係資料を保管するとともに、8分野に整理されている書籍・冊子類は書架に収めています。これらの作業には、濱谷正晴先生をはじめ、社会調査、歴史研究、アーカイブ学、学芸員など専門家、院生、学生、のべ1000人近い方々に、ご協力、ご参加をいただいております。そして、これらの資料を活かしていく取り組みとしては、すでに昭和女子大で学生12名が主体となって、4年間かけて日本被団協資料を「歴史資料」として研究し、発表することをめざしています。また武蔵大学では永田浩三先生のもと9名の学生が参加して、継承する会の、被爆者との連帯した活動を映像で伝える作品の制作を始めようとしています。

また、原爆被害にかかわる調査・研究事業とともに、「被爆者運動から学び合う 学習懇談会」シリーズも10回を重ねてきました。こうして収集した国民的な財産とも人類史的な記憶遺産とも言える資料群を、可能な文献から展示会、インターネットなどで順次、公開・開示していく必要があります。センターの設立が切実に求められている所以です。

次に、未来をになう世代が被爆の実相を知り、これまでの被爆者の歩みと運動に共感を受け継ぐこと、これこそが核廃絶に向けた人間らしく誇らしい生き方と理解できるように取り組みを強める必要があります。そのため、進展するインターネット時代

にあって、デジタル・アーカイブスにも取り組みます。その入り口として「未来につなぐ被爆の記憶」プロジェクトをスタートさせ、2つのことをめざしています。ひとつは被爆の体験資料をデジタル・アーカイブに収納し活用・普及できる状態にすること、ふたつにはその制作に関わることを通して被爆の体験を学び後世に伝えていく人を広げていくこと。各地で「被爆者と語り受け継ぐ」活動やイベントを展開し、広く次の世代の参加や継承活動を追求します。

これらの制作作業は現在、東大の渡邊英徳研究室との提携で進めていますが、いずれ作業のための独自の「スタジオ」も必要になってきます。

第三に、センター設立のための資金調達や募金活動を大きく進めます。4月11日に東京都より「認定NPO法人」としての資格を得ました。これにより、寄付行為にかかわる税制優遇をすべて受けられることとなります。（詳細は「通信」No.40をご参照ください。）

センターの建設及び運営にかかわる費用は当面4億円程度です。2020年までに6億円の募金をめざします。①誰でもこの設立募金に参加できるように、一口500円募金100万人以上の参加を呼びかけます、②1000以上の団体、個人に一口10万円以上の募金を呼びかけます。設立募金を推進するための実行委員会を立ち上げ、取り組みを全国に広げたいと考えています。重ねて、ご協力をお願いいたします。

被爆者運動が果たしてきた社会的役割、人類史的役割を世界の人々に伝え、東京から「ヒロシマ、ナガサキ」を発信し続ける拠点を、ご一緒につくりましょう。

以上